

## シンポジウム12

遺伝子染色体「遺伝子関連・染色体検査の精度管理～あなたの施設の対応は？～」

# 九州支部内施設での遺伝子関連・染色体検査の実施状況調査

◎川上 洋子<sup>1)</sup>、澁田 樹<sup>2)</sup>、蒲牟田 靖司<sup>3)</sup>  
平口 恵里香<sup>4)</sup>、佐藤 謙一<sup>2)</sup>

産業医科大学病院<sup>1)</sup>、国際医療福祉大学 福岡保健医療学部<sup>2)</sup>  
独立行政法人国立病院機構 九州医療センター<sup>3)</sup>、飯塚病院<sup>4)</sup>

2019年に発生した COVID-19 の世界的なパンデミックが契機となり、全国の医療機関に急速に遺伝子検査が普及した。その一方、他の検体検査に比べ精度管理や教育などの課題も多く抱えている。今回、本シンポジウムでは九州支部内施設での、遺伝子関連・染色体検査の実施状況を把握することを目的とし、アンケート調査を実施した。

### 【結果】

1. 遺伝子関連・染色体検査実施状況：回答があった99施設中、院内で遺伝子関連検査を実施している施設は87施設（87.9%）、内訳は病原体核酸検査87施設、体細胞遺伝子検査（造血器腫瘍）4施設（4.0%）、体細胞遺伝子検査（固形腫瘍）9施設（9.1%）、生殖細胞系列遺伝子検査7施設（7.1%）であった。実施している病原体核酸検査項目は SARS-CoV-2 検査87施設、次いで結核菌核酸検出31施設、MAC 核酸検出19施設であった。

遺伝子関連検査を実施している部門は微生物検査部門が45施設と最も多かったが、検査室全部門、看護部、ICT など、複数の部門が検査に携わっていた。

2. 精度管理：ISO15189認定施設は14施設（14.1%）、日臨技品質保証施設認証施設は33施設（33.3%）であった。内部精度管理実施施設は77施設（77.8%）、外部精度管理のみの回答は8施設（8.1%）、未施設5施設（5.1%）、未回答9施設（9.1%）であった。

3. 教育：具体的な教育プログラムを準備していない・作成中の施設は47施設（47.5%）、ドキュメント化した教育プログラムを確立している施設は21施設（21.2%）であった。

### 【考察】

医療法等の一部を改正する法律（平成29年法律第57号）により、遺伝子関連・染色体検査での精度管理の基準が明確化されたこともあり、精度管理は85施設（85.9%）で実施されていた。一方、複数の部門が検査に携わっているにも関わらず、教育プログラムが確立している施設は21施設（21.2%）であった。教育研修と技能評価について、知識・技能レベル基準を明確化することは必須であり、今後の課題であると考えられる。